

廣瀬社長が語る

タケミ・コーポレーション
の軌跡

「どうなっても命までは取られない」。

学歴も、お金も、技術もない。あったのは「頑張るしかない」という覚悟だけ。

ゼロから会社を立ち上げ、幾多の困難を乗り越えてきた廣瀬社長。

その原動力と、社員と共に築き上げてきた会社の歴史を、

ご自身の言葉で振り返ります。

廣瀬社長

ゼロからの会社設立

独学と覚悟で踏み出した第一歩



会社を立ち上げたのは25歳。学歴もお金も技術もなく、「頑張るしかない」と覚悟を決めました。設立手続きは本を読み、独学で進めることに。若さゆえに、走り出せたのかもしれませんが。ゼロからのスタートのため、信用を築くことだけを考えました。しかし、事業は思うようにいかず、特に資金面で苦労したものです。「命までは取られない」とプライドを捨て、頭を下げ続ける日々。「死ぬこと以外はかすり傷」という気持ちで必死に乗り越えました。

古く狭い業界で信用を築くということ

資金繰りと並行し、業界特有の難しさにも直面しました。私たちの業界は歴史が古く、人間関係も狭い。後発の私たちは歴史も暗黙のルールもわかりません。新参者は歓迎されず、目立った動きもできませんでした。相手からすれば「敵が増えた」と同じです。その中でいかに信用を得てお付き合いを深めるか、経営だけでなく人とのコミュニケーションにも非常に気を遣う日々でした。

会社の転機と、乗り越えた最大の危機



設立10年目の正念場、自己破産を覚悟した日々

これまでで一番大変だったのは、設立して10年が経つか経たないかの頃。売り上げも利益も上がらず、資金はどんどん出ていく一方で、本気で自己破産を覚悟しました。本業がうまくいかないからと他のことに手を出しても、状況が好転することはない……。一時期は社員数がゼロになったこともあります。そこからまた、一からやり直していきました。

どんな状況下でも止まらない、社会を支える仕事

一方で、災害やコロナ禍など社会的な混乱のときでも、私たちの仕事は幸いにも大きな影響を受けませんでした。私たちの仕事は構造物を作るのではなく、完成したものの維持管理です。震災で施設が壊れれば、作り直した後に私たちの仕事が待っています。他の建設業が止まったオリンピックやコロナ禍の際も、ライフラインを支える私たちの仕事は止まりません。社会が大変なときこそ優先される仕事だと、その重要性を再認識しました。

仲間と共に掴んだ信頼と、これからの展望



社員の頑張りが形になった「経審800点超え」

特に嬉しかったのは、経営事項審査（経審）で800点の大台をクリアしたことです。これは公共工事受注のための成績表で、800点は業界で仕事を受ける証となります。さらに「特定建設業」の許可も取得し、やっとどこに出ても恥ずかしくない会社になれたと実感しました。この点数は、現場の売り上げや利益が大きく評価されたもの。社員が懸命に取り組んでくれた結果そのものであり、心から感謝しています。

仲間と描く未来

約8年前からベトナム人実習生を受け入れ、今では8人のうち半数が社員として定着。日本人社員も定着し、今は信頼できる仲間だけが残ってくれていると感じています。周りから「最近、調子に乗ってるな」と言われることもあります。私自身にそのつもりは全くありません。ただ、昔に比べ会社が良くなってきたのは事実です。これからも、社員たちと共に一歩ずつ着実に前に進んでいきます。

その一杯が体を守る! 水と健康の深い関係

いつもの水分補給を少し意識するだけで、健康や美容に嬉しい効果が表れます。
良質な水がもたらすメリットを知り、心も体も健やかに整えましょう。

水と体の関係

まさに生命の源。体の60%は「水分」

私たちの体は、尿や便、呼吸、汗などを通じて、1日に合計約2.5Lもの水分を体外に排出しています。この失われた分を適切に補給しなければ、体の機能を正常に保つことはできません。食事から約1.0L、体内でエネルギーが作られる際の「代謝水」として約0.3Lを得ています。これだけでは、まだ約1.2Lの水分が足りていません。そこで重要になるのが、飲み水からの摂取。「1日2L」という目標は、この最低限必要な量に加え、運動や季節による発汗量の変化を考慮した、健康を維持するための合理的な目安とされています。体の巡りを止めないために、こまめな水分補給が何よりも大切といえるでしょう。



なぜ1日2L 水を飲む必要があるのか

巡りを止めない!1日の水分出納バランスの秘密

私たちの体は、尿や便、呼吸、汗などを通じて、1日に合計約2.5Lもの水分を体外に排出しています。この失われた分を適切に補給しなければ、体の機能を正常に保つことはできません。食事から約1.0L、体内でエネルギーが作られる際の「代謝水」として約0.3Lを得ています。これだけでは、まだ約1.2Lの水分が足りていません。そこで重要になるのが、飲み水からの摂取。「1日2L」という目標は、この最低限必要な量に加え、運動や季節による発汗量の変化を考慮した、健康を維持するための合理的な目安とされています。体の巡りを止めないために、こまめな水分補給が何よりも大切といえるでしょう。

水分不足で起こる 健康トラブル

喉の渴きはSOS。見逃せない脱水のリスク

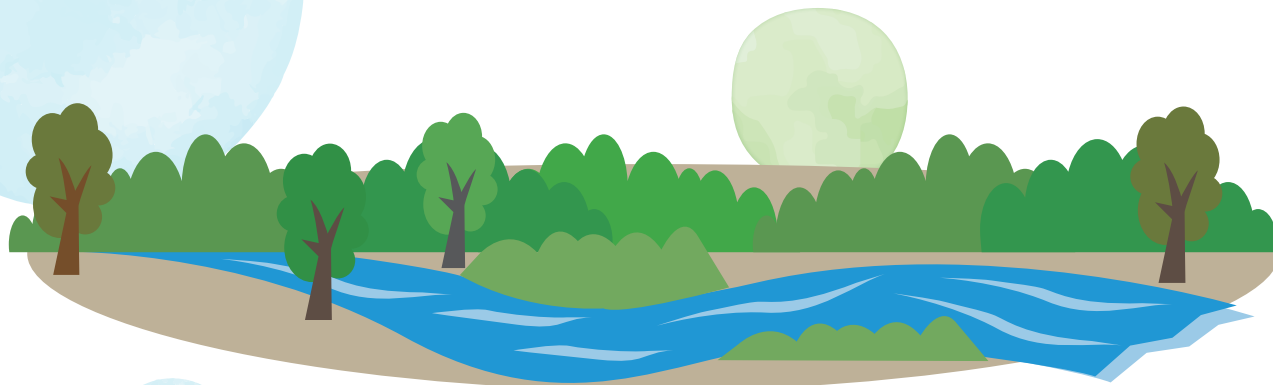
体内の水分が不足すると、まず血液の濃度が高まり、いわゆる「ドロドロ血」の状態となって血流が悪化してしまいます。これにより、全身の細胞へ酸素や栄養素が届きにくくなるだけでなく、老廃物の排出も滞りがちになります。その結果引き起こされるのが、頭痛や集中力の低下、便秘、熱中症などの症状です。さらに、血液が固まりやすくなることで脳梗塞や心筋梗塞のリスクも高まります。何より覚えておくべきは、「喉が渴いた」と感じた時点で、すでに脱水が始まっているという事実です。そうなる前に水分を摂ることが、健康を守る上で極めて重要になります。



きれいな水を飲むことの メリット

「良い水」を選ぼう!健康と美容への嬉しい効果

水分補給は、ただ量を満たせば良いというわけではありません。不純物の少ない良質な水は体にスムーズに吸収され、血液を健やかな状態に保ち、全身の血行を力強く促進してくれるでしょう。その結果、新陳代謝が活発になって肌のターンオーバーが整い、美肌効果の期待も高まります。また、老廃物の排出が効率的になるため、むくみや便秘の改善にも効果的です。日本の水道水は世界的に見ても高品質で管理されており、安全性が確保されている点が大きな魅力。日々の飲み水を意識して選ぶだけで、健康と美容へのポジティブな連鎖を始めることができます。



未来の水を育む、 浄水場のエコ最前線



水の安全を支える浄水場が、
今、地球環境を守るための重要な拠点として、大きな変革のときを迎えています。
蛇口をひねれば当たり前に出てくる安全な水の裏側で、
どのような環境保護活動が行われ、
未来に向けてどのような進化を遂げようとしているのでしょうか。



①エネルギー効率を高める新技術

浄水場では、大量の電力を消費するため、エネルギー効率の向上は、環境負荷を減らすための最重要課題の一つです。最近では最先端のデジタル技術の活用による省エネ化が進められています。

AI・ロボットが活躍。 スマート技術で最適化



AIが過去のデータから気象や曜日ごとの使用水量を高い精度で予測し、ポンプの運転を最適化することで、無駄な電力消費を徹底的に削減します。さらに、薬品の注入管理も支援して常に最適な水質を保つなど、浄水場の運転管理を強力にサポートします。

また、維持管理の現場ではロボットやドローンが活躍。人が入れないような細い水道管内の調査をロボットが行い、広大な施設の監視・点検をドローンが担うことで、作業の効率化と安全性が向上。デジタル技術をさらに活用し、将来的にはリモートで管理できる浄水場の整備も進められています。

より少なく、よりパワフルに。 革新的な水処理技術

浄水処理の基本である「凝集」の分野では、高塩基度PACや高分子凝集剤といった高性能な薬品が活躍しています。従来の薬品よりも少ない量で、水中の濁りを効率的に固めることができるため、薬品使用量の削減、ひいては環境負荷の低減に大きく貢献。さらに、オゾンと過酸化水素を組み合わせる促進酸化処理も開発され、この革新的な技術は、従来の処理では取り除くことが難しかったカビ臭の原因物質などを、強力な酸化力で分解します。



② 持続可能な浄水場運営のための施策

安定的に供給し続けるためには、施設の強靱化や効率的な運営体制の構築が不可欠です。持続可能な浄水場を目指し、多角的な施策が展開されています。

検針から見守りまで。 スマートメーターが拓く未来

各家庭に設置される水道メーターを、通信機能を持つスマートメーターに置き換える取り組みが始まっています。検針員が現地に赴く必要がなくなり、自動検針が可能に。検針業務の効率化はもちろん、30分ごとの使用水量を細やかに把握できるため、漏水の早期発見や、高齢者などの見守りサービスへの活用も期待されるなど、お客様サービスの向上と社会貢献の両面で大きな可能性を秘めています。



③ 現場でできるエコ活動例：電力削減・廃棄物削減

浄水場の環境への貢献は、大規模な技術革新や施策だけではありません。私たち一人ひとりが日々の業務の中でできる、身近なエコ活動も大きな力となります。

「チリツモ」が未来を変える。 今日から始める節電アクション

- **照明のLED化とこまめな消灯**: 共有スペースや事務所の照明をLEDに切り替えるだけで、大幅な消費電力の削減につながります。また、不要な照明はこまめに消す習慣を徹底することが大切です。
- **空調の適正温度設定**: 夏は28℃、冬は20℃を目安に、無理のない範囲で空調温度を調整し、エネルギーの無駄遣いをなくしましょう。
- **PCの省エネ設定**: パソコンの離席時にはスリープモードを活用するなど、OA機器の省エネ設定を徹底しましょう。

捨てる前に考える。 廃棄物削減とリサイクルの徹底

- **消耗品の適切な管理**: 必要なものを必要なだけ購入し、無駄な在庫を抱えないようにすることで、廃棄物の発生を抑制します。
- **廃棄物の分別徹底**: 浄水場から出る汚泥(浄水発生土)は、建設資材やセメントの原料としてリサイクルが可能です。その他の廃棄物についても、分別を徹底し、再資源化を推進しましょう。
- **ペーパーレスの推進**: 会議資料のデータ化や電子決裁の活用により、紙の使用量を削減し、森林資源の保護に貢献します。

私たちの仕事が、社会のライフラインを支えるだけでなく、地球環境の未来をも創造していることを誇りに、日々の業務に取り組んでいきましょう。